

日本透析医会通常総会資料

社団法人 日本透析医会通常総会

日 時 昭和63年6月18日(土)午後2時

場 所 ホテルニュー神田 3階301号室

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 議長選出

4. 議 事

第1号議案 昭和62年度事業報告の承認を
求める件

第2号議案 昭和62年度収支決算の承認を
求める件

5. 議事録署名人選任

6. 閉 会

第1号議案 昭和62年度 事業報告

I. 会 議

1. 総 会

昭和62年度 定時総会（法人設立前）

62. 5.10 (1)昭和61年度会計決算の承認を求
める件

①日本透析医会一般会計

②社団法人設立準備委員会会計

③都道府県透析医会連合会（預
託金）会計

(2)昭和62年度事業計画（案）に関
する件

(3)昭和62年度収支予算（案）に関
する件

(4)年会費に関する件

(5)入会金に関する件

(6)社団法人日本透析医会設立に伴
う件

①当会を社団法人認可時に解散
する件

②社団法人認可時に当会の所有
する財産を社団法人日本透析
医会へ寄附する件

社団法人日本透析医会設立総会

62. 5.10 (1)社団法人日本透析医会設立に関
する件

(2)定款に関する件

(3)寄附財産に関する件

(4)昭和62年度事業計画に関する件

(5)昭和62年度収支予算に関する件
(6)役員に関する件

(7)設立代表者選任に関する件

昭和62年度通常総会（法人設立後）

63. 3.19 (1)昭和62年度収支予算の修正に関
する件

(2)昭和63年度事業計画及び収支予
算に関する件

2. 理事会

昭和62年度第1回理事会（法人設立前）

62. 5. 9 (1)昭和62年度定時総会及び社団法
人設立総会の提出議案について

昭和62年度第1回理事会（法人設立後）

62. 9.25 (1)社団法人の設立について
 (2)試験研究法人について
 (3)昭和62年度の事業計画について
 ①委員会の設置
 ②委員の選任
 ③事業内容
 (4)腎移植推進事業報告
 (5)顧問税理士の選任について
 (6)事務局職員就業規則の制定について
 (7)会費徴収状況報告

昭和62年度第2回理事会

63. 1.23 報告事項

- (1)委員会報告（委員会開催状況、委員会報告書等）
 (2)財務状況報告
 (3)医療費改定に関する報告及び厚生省保険局医療課に提出した要望書について
 (4)その他
 ①昭和62年度第2回総会の日程等について
 ②常任理事会開催状況の報告

審議事項

- (1)臨床工学技士現任者講習会について
 ・臨床工学技士養成施設等指定基準検討会の意見書
 ・現任者講習会についての要望書
 ・臨床工学技士指定講習会テキスト企画書
 ・臨床工学技士現任者指定講習会についての打合せ報告書
 ・63年度現任者講習会開催について
 (2)63年度国際腎臓病学会、国際人工臓器学会、日本透析療法学会、

国際人工臓器移植センターに対する助成について

昭和62年度第3回理事会

63. 3.19 (1)通常総会提出議案について
 ①昭和62年度収支予算の修正に関する件
 ②昭和63年度事業計画及び収支予算に関する件
 (2)創立1周年記念行事の開催について
 (3)臨床工学技士現任者講習会の開催について
 (4)診断報酬の改訂に関する説明会の開催について

3. 常任理事会

62. 4.23 (法人設立前)

62. 5.31

62. 7.26 (法人設立後)

- (1)昭和62年度の委員会設置と担当理事について
 (2)第1回理事会及び法人創立記念パーティの開催について

62. 9.19 (1)法人創立記念パーティについて

(2)第1回理事会について

(3)財務報告

(4)委員会中間報告

(5)臨床工学技士養成施設等基準検討会報告

62.11.21 (1)医会の各委員会報告

①委員会開催状況

②委員会名簿

③要望書の提出

(2)厚生省の委員会報告

①ダイアライザー検討委員会

②臨床工学技士養成施設等指定基準検討会

(3)会計報告

- ①入会金及び会費納入状況
- ②試験研究法人会計（寄付金）の状況

- 62.12.20 医療費改定に関する要望書の提出について
- 63. 1. 9 医療費改定に関する件（家庭透析の保険登載について）
- 63. 1.23 昭和62年度第2回理事会の提出議案について

- 63. 2.15 (1)臨床工学技士の業務指針（案）について
- (2)総会（3月19日）の提出議案について
- (3)本会名称の英文について
- 63. 3.12
- 63. 3.19 昭和62年度通常総会の提出議案について

II. 委員会

委員会	開催年月日	委員会	開催年月日
1.適正化委員会		4.腎不全予防医学調査研究委員会	62. 7.25
①地域審議システム小委員会	63. 3.19	5.研修委員会	62.10.1
②適正維持透析療法小委員会	62.11. 5		62.10.15
	62.12. 4		62.11.22
			63. 1.3
2.地域透析医療システム委員会			63. 3. 5
①災害時救急透析医療小委員会	62.11.21	6.広報委員会	薬集会議隔週毎に開催
	63. 1. 9	7.内規委員会	63. 3.19
	63. 3.12	8.財務委員会	62. 9.25
②合併症対策小委員会	63. 1.14		63. 2.21
3.腎移植普及推進委員会	63. 2. 6		

1.適正化委員会

①地域審議システム小委員会

委員長 平 沢 由 平

昭和63年3月19日 委員会開催

出席者 平沢 由平, 関野 宏, 前田 憲志, 奥田 健二, 澤田 重樹, 渡井 幾男, 後藤宏一郎

(全員出席)

現状報告と活動計画の審議が行われ, 下記の如き総括を報告する。

記

1.現 状 報 告

地域的に慢性透析患者の導入時条件の審査検討を行っているところは次の如くである。

- (1)更生医療, 非更生医療とも: 愛知県, 新潟県, 栃木県
- (2)更生医療のみ: 北海道, 千葉県, 福岡県, 京都府
- (3)近く計画中: 宮城県, 福島県, 岐阜県
- 2.各地域の審議システムと活動実績を63年度中(昭和63年8~9月)にまとめる。
- 3.昭和63年度は, 10地域以上にこの活動を広げるよう努力する。

②適正維持透析療法小委員会

委員長 中 橋 彌 光

昭和62年11月5日 委員会開催 (吹田市)

昭和62年12月4日 委員会開催（名古屋市）
透析医療の質的向上と普遍化を目的とする調査研究を担当、当面は下記の3項目にしばって意見交換を行った。

- (1)透析療法（慢性維持透析）の方法、時間、回数等の妥当な範囲の検討と標準化の問題。
- (2)慢性維持透析における灌流液、諸薬剤、材料等の適正と思われる範囲の検討と標準化の問題。
- (3)慢性維持透析における諸検査について適正かつ妥当と思われる検査の項目ならびに回数の検討と標準化の問題。

その結果、各都道府県により保険診療審査について地域隔差が極めて大きいことが判明、また、本委員会の今回の検討内容は全て健保診療の範囲にとどまるため、昭和63年4月1日の医療費改訂後に改めて検討の上、基本的答申案の作製がなされるべきものと判断された。

従って、以後本委員会は保険対策委員会と称すべき作業内容を中心とせざるを得ないものと思惟される。

2. 地域透析医療システム委員会

①災害時救急透析医療小委員会

委員長 吉田豊彦

災害時救急透析医療システムは3年間で完成させる予定であるが、初年度としては以下の事業を行った。

1. 災害時救急透析医療加入施設調査表
全国の透析施設に昭和63年2月1日発送し約1ヶ月後回収した。
未だ未回収の施設もあるが、大方の加入を得、現在資料の分析整理中である。
2. 以下のワーキンググループを作った。
 - (1)災害別（種類、規模、期間別）対策方法の調査・研究
 - (2)透析関連機材等の確保手段の調査・研究

- (3)大都市災害の対策方法の調査・研究
- (4)コンピュータソフト開発

《昭和62年度委員会実施状況》

昭和62年11月21日：第1回委員会（透析医学会会議室）

昭和63年1月9日：第2回委員会（透析医学会会議室）

昭和63年3月12日：第3回委員会（名古屋・白川邸園）

②合併症対策小委員会

委員長 藤田嘉一

担当理事 鈴木満

昭和63年1月14日 委員会開催

- (1)糖尿病性腎症の導入時期の再検討および糖尿病性網膜症のアンケート調査
- (2)長期入院高齢者（65歳以上）の実態調査
- (3)慢性透析患者の骨（関節症状）合併症と治療指針

を2年計画の事業とすることとし、(1)、(2)に関する素案が提出され、昭和63年5月末迄に最終案の決定を行うこととした。

(3)に関しては、川口 良人

下条 文武

小野 利彦

井上 聖士

各委員の分担執筆とし、9月末迄に20~30枚程度の原稿を提出し、マニュアル作成を急いでいる。

3. 腎移植普及推進委員会

委員長 太田和夫

担当理事 山川 眞

1. 昭和62年第2回腎移植推進国民大会のためのパンフレット作成に協力、尚、本大会は、仙台市で開催され、稲生会長が出席された。

2. 昭和63年2月6日 委員会開催

於透析医会会議室

出席者 太田 和夫, 佐々木 崇,
中沢 了一, 大坪 修,
大島 伸一, 浜田 勝生,
山川 眞 (順不同)

会議内容 各委員の考えている腎移植普及
推進のための具体案を提議し,
昭和63年度に行うべき事業案を
作成, 又, 予算を検討した。(事
業案は63年3月19日総会にて提
議した。)

2月6日委員会決定の具体的内容

- 腎移植推進国民大会への協賛
- 透析医会々員に対する腎移植情報の提供 (太田)
- 移植についての講演会の開催と講師派遣 (大島)
- 地域における移植医と透析医懇談会開催の促進 (中沢, 浜田)
- Donationのためのパンフレット作成
(病院医師用
(患者説明用 (大坪, 佐々木)
- その他
地方腎バンク設立への協力など

4. 腎不全予防医学調査研究委員会

委員長 杉野 信博
担当理事 平沢 由平

昭和62年7月25日 委員会開催

出席者 杉野 信博, 三村 信英,
荒川 正昭, 前田 憲志,
平沢 由平 (全委員出席)

慢性腎不全の保存的治療に重点をおいた調査研究を行うことと, 諸分野の担当をきめた。本研究は期間を3年とし, 1~2回の中間報告を行い, 最終的には日常診療に役立つマニュアル

として小冊子にまとめる計画とすることを結論した。

5. 研修委員会

委員長 阿岸 鉄三
担当理事 今 忠正

昭和62年10月1日から5回に亘って委員会を開催した。

本委員会は, 理事会決定に基づいて, 現任者講習会を全国的に開催することとし, 監督官庁からの状況説明や地方事務局への説明等を行い, 別紙のごとく講習会を開催中, もしくは開催予定をしている。参加人員(受講者)は2,000名を越える模様で, 全体の受講者数の40%強を呈する見込みである。

又, 昭和63年には, 外人招待講演2回, 地方研修会の助成, 生涯教育用ビデオの作成を決定した。

6. 広報委員会

委員長 太田 裕祥

1. 機関誌発行のため, 編集会議を昭和62年9月から63年3月まで合計8回開催し, 打ち合わせを行った。
2. 昭和63年3月20日, 機関誌「日本透析医会雑誌」第2巻第3号を発行し, 全会員及び関係機関に送付した。

7. 内規委員会

委員長 関野 宏

昭和63年3月19日 委員会開催

於 ホテルニュー神田

出席者 関野 宏, 猪野毛健男,
木川田典彌, 飯田 喜俊,
辰川 自光, 寺尾 尚民,

後藤宏一郎，太田 和宏，
小野 利彦 (順不同)

1. 確認事項

制定済の規程等

- ①定 款
- ②職員就業規則
- ③会費規定

2. 制定していない規程等の協議

(1) 支部設置に関する規定

公益法人の管理に関する規定に従い，支部事務所をおくこととするが，その実施は各県自由とする。

すなわち，正規に登記し，独立性をもたせてもよいし，本部の出張所という立場でもよい。

名称は，〇〇県透析医会でも，日本透析医会〇〇県支部でもよい。〇〇支部の名称は，正規に登記しない場合でも使用できる。

(2) 会員に関する規程

① 会員基準

1. 本会の趣旨に賛同するもので，
2. 原則として日本医師会員であり，
3. 2名以上の会員の推薦を必要とし，
4. 各県（地元）の合意を得られること。

② 入会申込書により会長に申し込む。

③ 入会可否の決定は理事会で。

(3) 常任理事会規程

特に制定する必要はない。

(4) 役員選出等規程

来期改選までに作成。

(5) 委員会規程

各委員長，委員は，理事会を経て，会長が指名する。

(6) 支部長会議

各県・各地区と密着した活動をすすめるために支部長会議が必要。

3. 事務所で原案作成中の諸規程

(1) 事務処理規則

① 職員給与規程

② 職員退職給与規程

(2) 会計処理規則

① 旅費規程

(3) 総合議事規則

8. 財務委員会

委員長 平沢由平

担当理事 鈴木 満

各地区支部長・代表者により，昭和62年度には2回開催され，財務状況報告，試験研究法人に対する寄付状況の説明がなされ，各地区代表者より当会に対する運営状況への意見交換がなされた。

III. 会務報告

(法人設立前)

- * 62. 5.29 日本医師会に脳死および臓器移植についての要望書を提出した。
- * 62. 6. 1 厚生省結核難病感染症課から「腎不全対策中間報告書の概要」を受領し、この資料を理事及び各県透析医会会長に送付した。
- * 62. 6.30 社団法人認可申請書を厚生省、結核難病感染症課へ提出した。
- * 62. 7. 9 腎移植推進月間及び第2回腎移植推進国民大会の後援を承諾する旨の文書を厚生省結核難病感染症課へ提出した。
- * 62. 7.21 社団法人設立許可(厚生大臣)
- * 62. 7.22 法人設立登記(東京法務局)

(法人設立後)

- * 62. 8.20 厚生省健康政策局の臨床工学技士養成施設等基準検討会の委員を本会鈴木常務理事に委嘱され、第1回検討会に出席した。
- * 62. 8.25 試験研究法人認可(厚生大臣)
- * 62. 9.25 法人設立記念パーティ開催(於ホテル・オークラ)
- * 62.10. 1 臨床工学技士法説明会開催(於医会)
講師 厚生省医事課 瀬上課長補佐
- * 62.10. 3 第2回腎移植推進国民大会開催
(主催 厚生省・開催地 仙台市) 本会から稲生会長が出席した。
- * 62.10. 6 南カリフォルニア大学助教授
アインシュタイン氏講演会開催(福岡県血液透析施設協議会主催、本会協賛・開催地福岡市)
- * 62.11. 5 臨床工学技士養成施設等指定基準検討会から厚生省健康政策局長に意見書が提出された。
- * 62.11.11 臨床工学技士現任者講習会についての要望書を厚生省健康政策局 阿部医

事課長に提出した。

- * 62.12.25 医療費改定に関する要望書を厚生省保険局 谷医療課長に提出した。
- * 63. 1.23 第2回理事会において臨床工学技士現任者講習会を本会が主催して全国で開催することが決定された。
講習会の開催について研修委員会、支部長会議を1月23日と3月5日に、また、講習会地方事務局実務者会議を3月12日に開催した。
- * 63. 2. 1 (財)医療機器センターから臨床工学技士業務指針(案)の送付があった。
この案については、2月15日の常任理事会及び2月21日の財務委員会、支部長会議において審議された。
- * 63. 2.25 厚生省保険局医療課より、中央社会保険医療協議会へ医療費改定の諮問案が提出されたので、この資料(透析施設関係分)を理事及び各県透析医会会長に送付
- * 63. 3.20 日本透析医会雑誌(第2巻第3号)発刊
- * 63. 3.28 医療費改定に関する説明会を開催した。
講師 厚生省保険局医療課 松谷課長補佐

第2号議案 昭和62年度収支計算書

1. 収支計算書(昭和62年7月21日から昭和63年3月31日まで)

科 目	修正予算額	決算額	差 異	備 考
I 収入の部	円	円	円	
1. 会費収入	48,200,000	51,910,000	3,710,000	
2. 入会金収入	88,000,000	94,780,000	6,780,000	
3. 寄付金収入				
日本透析医会	1,637,148	1,637,148		
社団法人設立準備委員会	66,830,557	66,830,557		
寄 付 金	121,699,295	126,705,500		
寄付金収入合計	190,167,000	195,173,205	5,006,205	
4. 受取利息収入	6,600,000	5,884,519	△ 715,481	
5. 雑 収 入	3,230,000	3,232,000	2,000	
当期収入合計(A)	336,197,000	350,979,724	14,782,724	
II 支出の部				
1. 事業費				
透析医療の適正化事業	5,000,000	291,680		
地域透析医療システム事業	1,000,000	1,282,430		
腎移植普及推進事業	4,000,000	3,351,720		
研修等事業	1,000,000	1,680,065		
広報活動費	2,000,000	1,862,154		
事業費合計	13,000,000	8,468,049	△4,531,951	
2. 管理費				
人件費	12,155,000	8,788,672		
旅費交通費	2,600,000	6,299,950		
需要費	14,112,000	11,656,604		
租税公課	100,000	105,840		
雑 費	533,000	1,107,740		
管理費合計	29,500,000	27,958,806	△1,541,194	
3. 予備費	0	0	0	
4. 基本財産組入額	230,000,000	230,000,000	0	
当期支出合計(B)	272,500,000	266,426,855	△6,073,145	
当期収支差額(A)-(B)	63,697,000	84,552,869	20,855,869	
次期繰越収支差額	63,697,000	84,552,869	20,855,869	

2. 正味財産増減計算書(昭和62年7月21日から昭和63年3月31日まで)

科 目	金 額		
	円	円	円
I 増加の部			
1. 資産増加額			
当期収支差額	84,552,869		
建物附属設備受贈額	322,907		
什器備品受贈額	2,913,800		
電話加入権受贈額	313,700		
保証金受贈額	6,350,000		
基本財産繰入額	230,000,000	324,453,276	
2. 負債減少額		0	
増加額合計			324,453,276
II 減少の部			
1. 資産減少額			
建物附属設備減価償却額	34,389		
什器備品減価償却費	326,199	360,588	
2. 負債増加額		0	
減少額合計			360,588
当期正味財産増加額			324,092,688
期末正味財産合計額			324,092,688

3. 貸借対照表(昭和63年3月31日現在)

科 目	金 額		
	円	円	円
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	107,588,468		
仮払金	989,365		
流動資産合計		108,577,833	
2. 固定資産			
基本財産			
定期預金	230,000,000		
基本財産合計	230,000,000		
その他の固定資産			
建物附属設備	288,518		
什器備品	2,587,601		
電話加入権	313,700		
保証金	6,350,000		
その他の固定資産合計	9,539,819		
固定資産合計		239,539,819	
資産合計			348,117,652
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	4,227,100		
預り金	16,797,864		
仮受金	3,000,000		
流動負債合計		224,024,964	
負債合計			24,024,964
III 正味財産の部			
正味財産			
正味財産			324,092,688
(うち当期正味財産増加額)			(324,092,688)
負債及び正味財産			348,117,652